

一吟徹心霊
一曲能興国

錦友…第312号

(令和5年1月1日)

・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話:東京03-5484-3301(代)
〒106-0045



厳しい国内外情勢の中

我が錦城会は

会員増強に努めましょう

一般社団法人詩吟朗詠錦城会

会長 城戸城濤

令和も五年目を迎え、元号の
呼称にもすっかり慣れてまいり
ましたが、八カ月だった令和元
年暮れの頃から襲ってきたコロ
ナウイルス感染症の世界的な広

がりは今なお猛威を奮って人々
を苦しめております。
本年こそは、令和の名にふさ
わしい清らかで穏やかな一年と
なりますことを祈らずにはおら

れません。

とは申せ、ロシアによるウク
ライナ侵攻に端を発したオイル
危機と言ってもいい物価高や食
糧危機、はたまた独裁色を強め
る習近平国家主席率いる中国の
動向、やたらにミサイルを撃ち
続ける北朝鮮の挑発行動等々、
気の休まらない世界情勢は、こ
こへ来て益々深刻の度合いを強
めて来ていると言っても過言で
はないと考えます。

謹んで年頭のご挨拶を

申し上げます

本会顧問の諸先生をはじめ、吟界各方面の皆様、新しい年
を迎えお慶びを申し上げます。

昨年、コロナ禍の中とはいえ、大規模会場での催しも再
開され始めました。十分すぎるほどの注意をしながら、感染
に気を付けながら一歩一歩前に進みましょう。

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い
申し上げます。

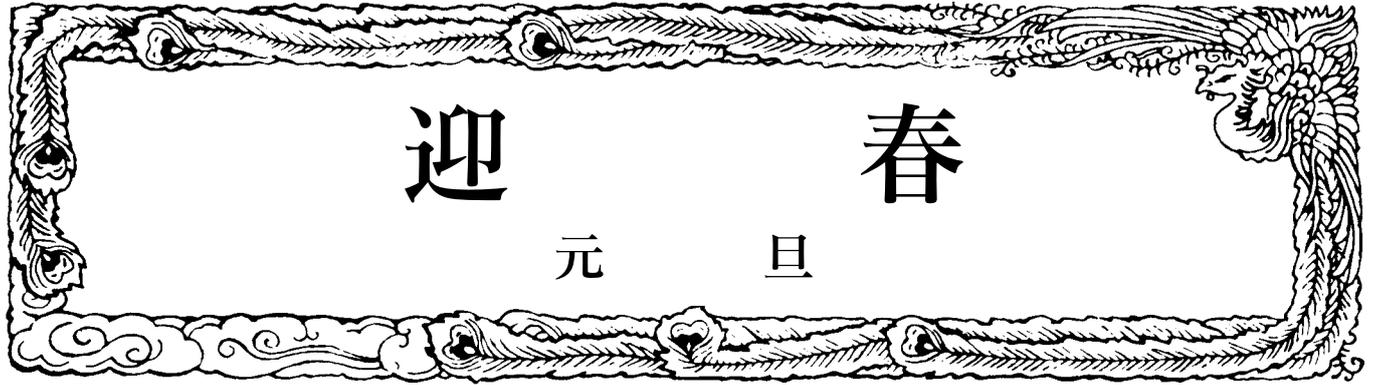
令和五年 元旦

詩吟朗詠錦城流 宗家 山元錦城
詩吟朗詠錦城会 会長 城戸城濤

国内に目を向ければ、すつかり弱体化した観の野党の低迷のお陰で安泰を誇るかに見えた政権与党も、何やら自滅気味の様相を呈してきておりますことは、誠に危惧すべきことと考えます。

コロナの状況も、当初の闇雲に恐れおののいていた頃と比べれば、対処法も治療法も格段の進化を遂げつつある事は誠に喜ばしい限りであります。尚まだ油断の出来ない状況であると言わなければなりません。
以前にも書きましたが「恐れ過ぎずされど侮らず」の精神でこれからも健康な毎日を送って行つて頂きたいと存じます。
さて昨年は、二年に亘り中止の止むなきに至つておりました全国大会を名古屋の地で開催することが出来、会員皆様のご協力、地元皆様のご努力により成功裏に無事終了できましたことに感謝申し上げます。
師範吟詠発表会も二月の京都での開催は中止の止むなきに至りましたが、六月には片山津での総会並びに師範研修会を挙行することが出来ました。
また、県本部大会は、九月四日に福岡県本部大会が開催され、九月二十五日には神奈川県本部が故丸山城壮宗範の三回忌を改善する記念大会を開催することが出来ました。
加えて、五月十五日には滋賀県湖南地区が、十二月四日には滋賀県湖南地区がそれぞれ大会を開催する等、これまでコロナの影響で出来なかつた催しが少しずつ開催されるまでになってまいりました。

勿論コロナ対策は万全に取つた上での事ですが、そろそろ対処法も分かつてまいりましたので、本年はますます各種の催し物が数多く開催されることを願つております。
しかしながら、冒頭にも述べましたが国内外の情勢は全く予断を許さない厳しい一年になるであろうことは覚悟しておかなければならないと考えます。
こうした中、我が錦城会は永遠のテーマである会員増強に本格的に取り組みなければならぬ時を迎えております。年々減少する会員数を眺めるに付て常務理事会・理事会でも議論を重ねてはきましたが、中々これと言つた対策には到達しません。
ここは、若い力、いや年齢は問いませんが、新しい発想での展開が求められていると考えます。今年こそは、そういった仲間を本部に招いて自由な立場で議論して頂き広報・宣伝や指導体制の事など、専務理事を中心に会議を開催してまいりたいと考えております。お声がかかりましたら是非積局的なご参加をお願い致します。
最後に、皆様のご健勝とご多幸な一年となりますことをお祈り申し上げます。



顧問
(順不同・敬称略)

衆議院議員 麻生 太郎

元衆議院議員 久間 章生

筑前琵琶橋流日本橋会会長 橘 旭宗

(株)日本文化チャンネル桜社長 水 島 総

会長 城戸 城濤

相談役 山元錦城(東京) 理事

同 本村錦香(鹿児島) 同

最高諮問委員 高橋城伸(広島) 同

同 山元錦隆(東京) 同

同 村瀬城博(愛知) 同

同 林 錦馨(長崎) 監事

副会長 本村錦香(鹿児島) 同

同 金子城大(埼玉) 参与

専務理事 草薨城輝(東京) 同

常務理事 土師城皓(神奈川) 同

同 高羽城幹(神奈川) 同

同 佐藤錦杲(神奈川) 同

理事 今井 勝(東京) 同

同 東本錦怜(福岡) 同

同 村山城機(東京) 同

同 古賀城暎(佐賀) 同

同 西川錦洸(広島) 同

同 竹崎錦里(道南) 同

同 遠藤城啓(東京) 同

同 吉本城川(鹿児島) 同

同 堀川城怨(滋賀) 同

同 鍛冶錦代(愛知) 同

同 後藤錦曜(長崎) 同

林 錦枝(滋賀)

佐藤城孝(神奈川)

藤田錦信(宮城)

毎熊城明(長崎)

土田城紘(滋賀)

岩田城龍(東京)

大内城晃(茨城)

本間城楓(道央)

芹澤城征(福島)

海野錦麗香(茨城)

金子錦要(埼玉)

和田錦堯(東京)

石原城興(神奈川)

深水城實(静岡)

若月城嗣(愛知)

宮川城広(滋賀)

塩川錦晃(大阪)

沖浦城昭(広島)

山本城勘(山口)

益田城真(福岡)

飯田城英(大分)

山下城音(長崎)

吉松城勇(宮崎)

第三十一回日本伝統文化吟友会 吟剣詩舞コンクール 全国決勝大会で入賞する

漢詩一般一部の有原裕絵様が、優勝を獲得する

錦秋の紅葉狩りの好季節の、11月23日、日本伝統文化吟友会吟剣詩舞コンクール全国決勝大会が、石川県金沢市文化ホールで開催されました。

全国各地の予選会を乗り越え、全国大会の出場権を獲得されての出場となり、会場内は緊迫した中での大会となりました。詩吟朗詠錦城流宗家山元錦城先生のご臨席を頂き、錦城会から8名の選手が出場しました。

漢詩一般一部 有原裕絵(埼玉)
漢詩一般四部 木屋吉弘(東京)
" 平川智久(広島)
" 林 清隆(埼玉)
" 菊池慎一郎(茨城)

短歌一般の部 佐藤法子(神奈川)

詩舞一般二部 藤井美由紀(広島)
詩舞一般三部 坂口由美子(広島)

審査委員に、吟詠の部は、金子城大先生、剣詩舞の部は、西川緑恵先生が務めました。審査の結果は、漢詩一般一部

の有原裕絵様が優勝、一般四部の、第9位に菊池慎一郎様が、審査員特別賞には、木屋吉弘様、平川智久様が入賞しました。

本年の『文部科学大臣賞』『石川県知事賞』『公財』日本伝統文化振興財団賞』を決める「出場者区分」別の優勝者による吟詠の部優勝者(幼少年の部を除く)6名剣舞詩舞の部優勝者8名で本決戦を行ないました。この本決戦に、優勝の有原裕絵様が出場しましたが、審査の結果は、吟詠の部で4位となりました。

惜しくも入賞を逃されました皆様方も来年を期待いたしております。開催地、日伝吟北陸地区本部会長黒澤眺藍先生、事務局長万代呂紫龍先生を始め、役員・委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

尚、日本伝統文化吟友会では、全国コンクールを8地区(北海道・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州)で開催しておりますので、各地区予選会に技量の一助に出場をお願いいたします。

(二社) 詩吟朗詠錦城会担当
日本伝統文化吟友会 金子城大

第18回北松地区吟詠交流会の開催

秋晴れに恵まれた令和4年9月25日、松浦市において、「北松地区吟詠交流会」を開催しました。松浦市は、古くから「元寇」の土地として知られ、元寇歴史館等もあり、鷹島町では、元の軍艦の錨なども引き上げられています。

北松地区交流会は、会員相互親睦を深める目的で毎年開催している、北松地区(松浦、吉井、佐々、鹿町、江迎、田平、平戸)各支部共催の恒例行事であり、本来であれば第21回となるのですが、コロナ禍により令和元年より3年間にわたり、中止を余儀なくされてきました。今回の開催についても、様々な議論を重ねて来ましたが、会員の中からも開催について強い要望もあり、又、コロナも落ち着きを見せてきたので開催することに決定しました。

当日は、参加者全員の徹底した感染対策を行い開場しました。会員の皆さんも3年越しの開催とあって、久しぶりの再会を喜び、お互いの近況を話しているうちに開催時刻を迎えました。参加者全員マスクを着用し、「富士山」の大合吟の後、空手道「拳城館」の師範2名による流祖の「漫述」の吟に合わせて空手の



演舞で会場を盛り上げ、吟詠発表へと移りました。

今回、新たに入会された会員さんも含め、久々の発表の場で、緊張感の中にも、この3年間蓄えてきたエネルギーを十分に吟詠に注ぎ、力一杯の発表の場となりました。

そして、プログラム途中には、詩舞道錦城流の皆さん方による「峨眉山月歌」、「山行」、「探春」そして「山中月」の4題の詩舞を演じて頂き、会場に華を添え、盛会のうちに交流会の幕を閉じることが出来ました。

プログラム終了後、食事を催し、会員相互の親睦を深め、錦城会の「絆」の強さを再確認すると共に、「まずは、あなたから声かけを」を台言葉として、一人でも多くの会員確保に努めると共に、お互いの健康と来年の再会を誓い合って、第18回の交流会を閉会することが出来ました。

(江迎支部 大橋城旭)

新入会員の紹介

(10/17~11/25)

- 足立支部 安森昭子 設楽ふさ
- 多度支部 服部清美
- 垂水道場 和田絹子
- 気仙沼支部 菊田恵子

本部の動き	4・10・16より 4・11・20まで
-------	------------------------

- 10月22~24日 広島県本部の師範指導と昇格審査
- 11月5~6日 北海道道央本部者研修会

13日 静岡県本部の講習研修会と昇格審査



日野支部・蒲生支部 合同吟行会

10月9日・10日にかけて、日野支部・蒲生支部合同の吟行会が開催され、18名が参加しました。コロナ禍以降はじめての開催であり、一泊二日のバス旅行ということもあって、このような時期に外泊することに多少の戸惑いもありましたが、意を決して参加させていただきました。

初日は、名古屋で開催された全国大会に参加。各地から集まった会員の皆様と、短いハールスの後に合吟をするのは簡単なことではありません。スタッフの方々には、大変ご苦労をしていただいていると感じました。今回、印象に残ったことの一つは、若いアメリカ人の男性二人と共に吟じたことです。詩吟に関心を持って学ぼうという外国人がおられることに、改めて日本人として自国の伝統文化や歴史をわきまえることの大切さを感じました。

また、脳の手術後、目がよく見えないという中、拡大鏡を持って参加された方もおられ、ご家族の方が気遣って控室の前まで同行されていた姿が大変心に残りました。
コロナ禍が続く、海外での戦争も収束せず、日本でもテロが

起こるなど、過去の悲惨な歴史が再び繰り返されるのが懸念される時代に、様々な立場で参加された人たちが心を合わせ、歴史を率いてきてくださった先人たちの思いを受け止め、この試練のときを共に乗り越えて行くことが大切だと感じさせられました。



知多半島の活魚の旅館で一泊した翌日は、雨模様で天気回復。一行は三重県の「なばな里」を訪れ、ベゴニアガーデンなど華麗な花々が咲き乱れる公園を散策しました。秋晴れの暖かな日差しのもと、日頃味わうことのできない心洗われる癒しのひとときとなりました。卒寿

をお迎えになられた木村城月先生の車いすを押しながら、園内を澗刺と回られていた奥村城志支部長の姿に心が和みました。最後に、日野支部・蒲生両支

部の支部長さまはじめ、お世話していただきました役員・会員の皆様に、この紙面をお借りして感謝を申し上げます。
(日野支部 神山城理)

地域中学校文化祭に参加出演して

福岡中央道場 松山錦聖

10月20日、私は福岡県那珂川市の那珂川北中学校の文化発表会に参加しました。マンションの回覧板に目を止めた主人が、参加を勧めてくれたのがきっかけでした。この中学校では、日頃より保護者や地域の方と生徒が共に学ぶ「大人参加型授業」を行っていて、その発表の場として、この発表会を行っているそうです。

歌：果たして受け入れられるのか？と少し不安でしたが、東本先生のご指導を頂き、自信を持って臨むことが出来ました。

しかし、コロナ感染の影響で、行事はことごとく中止となり、今回3年ぶりの開催となりました。参加者は、私を含め2組でしたが、生徒たちはとても楽しみにしていた様子で、明るく元気でパワーに満ちあふれていました。

和歌は、「秋風にたなびく…」、詩吟は「山中月」、共に季節に合わせて生徒たちに分かり易いものを選択し、詩の解説も添えました。中学校の先生方は、詩吟と和歌の説明もして下さり、更には、生徒たちの聞く姿勢、態度も素晴らしく、学校全体が一丸となつて発表会に力を入れている事がうかがえました。私も、それに応えようと、異例の雰囲気の中でしたが、日頃のお稽古の成果が出せた気がします。

生徒たちの発表では、「大人参加型授業」のゲストティーチャーからカラオケを習っているようで、ひと学年から5名ほどの生徒が、大きな声で元気よくカラオケを歌っていました。その中で、ガラリと変わり、詩吟と和

温かな拍手と生徒さんや先生方から、お褒めの言葉をたくさん頂き、普段の吟詠会では味わう事の出来ない感動を覚え、大変貴重な体験をさせて頂きました。

(会員増強のための 声かけ推進標語)
まずは
あなたから 声かけを
(錦城会員向け)

したところ、『来年も発表会に参加して頂きたいし、ゲストティーチャーとしてもご協力願いたいので、来春のオリエンテーションにも是非参加して頂きたい』との事でした。
日頃から錦城流や詩吟と琵琶の素晴らしさを発信したいと思っけていても、なかなか出来ないと諦めている自分が居りました。でも、小さなチャンスは、周りに沢山あるような気がしません。発信する事を常に忘れず、いけば、予想もしないラッキーな情報が飛び込んで来るものなのかもしれません。これからも、自身の吟に磨きをかけながら、私に与えられた「志事」は、最善を尽くし、老若男女を問わず、多くの世代の人達に、錦城流の詩吟と和歌そして琵琶の素晴らしさを伝えて行けるように精進して参ります。
私一人では気付けなかった回覧板の小さな情報を教えてくれた主人と、このような発表の場を作って下さった那珂川北中学校の皆様にご心より感謝いたします。

有馬温泉 秋の温習会

令和4年10月23日(日) 524日(月)に、晴天に恵まれて、約2年半ぶりに「大阪府本部秋の温習会」をテレビでおなじみの有馬・兵衛の「向陽閣」で行いました。

有馬温泉への往路は、電車、バスないし自動車便乗によって、午後1時までに集合場所の「向陽閣」に参加者全員が無事に到着しました。

温習会は、午後1時30分から始まり、第一部は個人吟詠を行い、第二部は4人での合吟を行いました。個人吟詠では、吟じる前に、吟題、作者名、そして、詩の意味を知るために、詩を朗読してから吟じました。



午後4時ごろに温習会を終わり、待ちに待った懇親会です。

部屋に入ってから「金の湯、銀の湯」でひと風呂浴びて、懇親会場へ行き、午後5時半から懇親会が始まりました。久しぶりの懇親会、宴会とあって、皆さん大いに飲み、歌い、各教室の皆さんと話の花が咲きました。

午後7時半に宴会が終わって、各自部屋に入って落ち着いたところに、一つの部屋に集まり、夜遅くまで語り合いました。

道南本部青年部 青森遠征

表題は少々大げさな表現ですが、10月29日(土) 青森県平内町で開催された『第8回平内まつり』に道南本部から3名が出演しました。道南本部・専務理事の村上城修先生から、村上先生が居住しており道場も開設している青森県平内町の文化祭に剣舞としての出演の依頼があり、それに応じる形で『少年吟』の出演を打診したところ、村上先生から快諾を頂き、実現しました。

平内道場として、村上先生は、



次の日は帰りです。「向陽閣」を後にして、もらったクーポン券でお土産を買い、自動車であつた人は、黒枝豆を買うために丹波篠山に行き、電車やバスで来た人は、また、電車やバスで初秋の景色を見ながら、全員無事に帰途に就きました。

神戸の皆様には、会場のほか、コロナの関係での全国旅行割やクーポン券の手続き、部屋割り等で、大変お世話になりました。ありがとうございます。

機会があれば、また、一泊で温習会をしたいと思いがら・・・

(大阪府本部 久保城幸)

大河ドラマ『鎌倉殿の13人』にちなんだ吟と剣舞吟の2題、道南本部所属の竹内光汰君は、一般の人に良く知られた詩吟である『題不識庵撃機山図』を吟じました。



普段目にするのではない剣舞や少年吟に会場は、大いに盛り上がり、また来年の参加を約束し、大きな拍手の中、終演となりました。

今回の出演にあたり、道南本部から旅費の一部ということも、後援を頂きました。というのも、道南本部では、青年部と

全国の各組織体におかれまして、若い会員の方が行動をおこされた時には、ぜひともご後援をいただけることを願っています。

(道南本部 竹内城泉)

この細き道 行きしかと 両足速き 街並を過ぐ の両足は「雨足」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

お詫びと訂正

錦友311号(前号)の(3)頁3段目の「樋口一葉幻想」の記事の中の 一 君かつて

- ◆催事ののご案内◆ (令和5年1月～5年3月)
- ◆本会主催 ◆本会后援
- ◆第二回指導者講習・研修会
- ・3月2日(木)～3日(金)
- ・開催地 福岡県春日市
- ◆詩舞道錦城流第13回全国大会
- ・4月27日(木)
- ・開催地 鹿児島県鹿児島市

吟行会 石川丈山を訪ねて

石山支部 杉田錦瑛



丈山苑

ほかほか陽気の縁側で丈山先生が愛した抹茶をいただき、静かな気分でお庭を堪能致しました。

丈山先生の銅像の前で、『富士山』を大きな声で合吟し全員スッキリ。

バスの中では、11月19日開催予定の「もりやま市民活動フェスタ」発表の吟をマスク着用しながらの練習を。

お昼は「魚太郎蔵のまち」で海鮮料理を満喫しました。元気だった会員も移動の時は充実感でウトウトされる場面も。

次は、千代保稲荷神社（通称おちよぼ稲荷）へ参拝。

欲張りな皆さんは、皆の健



千代保稲荷

康、コロナ禍の終息、世界の安全、景気の回復を祈り、参拝後色々なお店が並ぶ参道にてお楽しみのお買い物。美味しそうな柿を大きな箱で購入する人、早々とお正月用にと豆類を買い求める人、『楽しいね！』と洋品店を次々と見て回る人、最後に草餅をお土産に、やっとバスに乗り、空いていた席はお土産でいっぱいになりました。

帰路のバスでもう一度、吟詠発表の練習。外は眩しい夕焼け（夕陽）、楽しい一日への感謝と

ふじか晴れランチ会にて

新体詩「日本讃歌」を詠う

ランチ会とは、地元大野城市議会議員の平田不二香さんをランチを食べながら、出会いを楽しみ乍ら応援し大野城市を盛り上げて行こう会！！です。

地元井上賢吾県議会議員、井本宗司市長のごあいさつの後、錦城会福岡県本部の東本門下5名での「日本賛歌」をご披露さ

せて頂きました。故松尾城州先生作詞の北から南迄の日本の風景と叙情を口語体で、その詩文にぴったりの、山元錦城宗家の作曲、一般の方々聞いて頂くにはとても良い曲だと思ひ、選曲しました。二百三十名の会場にご参集の皆様を包み込んで頂き、「幸先の良い、正にふじか



丈山先生銅像前にて

明日も幸せでありますようにと祈り帰宅。
3年ぶりの吟行会に皆満足気でした。「吟の上達もお願ひしてきたわ！」という人もあり、お稲荷さんがそんな願ひも聞いて下さるなら、そんな嬉しい事はあります。
2回に渡り愛知県へのバス旅行。令和5年は滋賀県での全国大会開催です。
皆様お揃いでお越し頂きます様お待ちしております。

江戸いろはかるた

いろはにほへと（色は匂へど）

（すべて）美しく照り

映えていても、

ちりぬるを（散りぬるを）

やがて散り衰えて

しまうものだ。

わかよたれそ（我が世誰ぞ）

この世にだれが（何が）

つねならむ（常ならむ）

常住なものがあろうか。

うるのおくやま（有為の奥山）

はかなく移り変わる

奥山（現象の世界）を

けふこえて（今日も越えて）

今日越えて（超越して）、

あさきゆめみし（浅き夢見じ）

浅い（浮ついた）

夢は見まい。

あひもせず（酔ひもせず）

酔ったような生涯は

過ごすまい。

☆竹あかりと琵琶と吟詠の夕べ☆

この度、小倉城庭園にて、「琵琶と吟詠の夕べ」を開催することになりました。

「竹宵を竹財に」をテーマに開催されている「小倉城竹あかり」の夜に、武家屋敷を再現した小倉城庭園で演奏できる運びとなり、誠に嬉しく思います。私たちの演奏が微力ながら地域文化の向上に寄与できれば幸いです。多くの方のご来場をお待ちしております。

(詩吟朗詠錦城会福岡県本部 東本錦伶)

(筑前琵琶日本橋会 東本旭令)

- 日時 令和4年11月4日(金) 開演19時～20時30分
- 場所 小倉城庭園 書院棟
- 入場料 演奏は無料ですが小倉城庭園への入場料が必要となります
(一般:350円 中高生:250円 小学生:100円)
- 出演 詩吟朗詠錦城会福岡県本部有志
筑前琵琶日本橋会有志
日本尺八連盟有志

竹あかりの日に、このようなイベントが開催されることを嬉しく思います。

初めての試みでございますが、庭園内の様々な場所から、琵琶と詩吟の調べに触れて頂き、紅葉も美しい季節となっておりますので、夜のライトアップと合わせて皆さまに楽しんでいただければ幸いです。

このような会を催していただき詩吟朗詠錦城会福岡県本部並びに筑前琵琶日本橋会有志の皆様には深くお礼申し上げます。

(小倉城庭園 館長 中川康文)

下さった皆様のおかげです。感謝に堪えません。まずは触れてもらう、知ってもらう、そして、趣味を持つってもらう。そして、その中から吟道を選んでもらう一助となれば何よりです。一つ目標は達成されたのでは、と思います。このような機会を今後も多く持つことが、今後の課題です。「坐して待つより、打つて出よ」皆様の鑑賞に耐え得る実力をつけるべく、今後ますます日々精進致します。

(小倉支部 小田城聖)

「小田さん、竹あかりの開催中小倉城庭園で詩吟の会をしてみない？」「おお、ありがとうございます。是非に是非に！」

北九州市内外、福岡県外からも来訪者のある「小倉城竹あかり」北九州の秋の夕べを彩るイベントです。

9月に開催した県大会会場に竹灯籠を飾らせて戴いたご縁で、お声が掛かりました。実はこのような機会を待っていた自分が居ます。会員数の激減・高齢化、コロナ禍・・・何かできることはないか、どうしたら次世代にバトンを渡せるか、先生方にお

声を掛けて戴くたび、そう思っていました。

小さなご縁を紡いで紡いでこの機会、決して逸してなるものか、そんな思いでお返事をしたので、開催ありきの「先生方が無理なら自分一人でもやってやる！」のお返事です。えい、ままよ。東本本部長に、思いの丈をしたためた熱意だけのお手紙をお渡ししたのが、開催の一カ月と10日前でした。幸せなことに「やりましょう」の一言で動き出しました。

本部長、吉澤相談役、福田理事と4名で庭園に伺った帰りに

は、演目がどんどん決まり、とてもわくわくしたのを覚えています。それから、リモートでの打ち合わせでしたが、無事に11月4日、開催当日を迎えることが出来ました。

書院棟の大広間と池の中の浮島との二元演目、目線の変わる楽しさ。琵琶「茶絃録」中の香炉からの茶の香り、五感で楽しむ仕掛け。何より凛とした晩秋の夜、やわらかな灯りの中という幽玄なる環境。素晴らしい会であつたと自負しています。

これもすべて、ご参集くださった先生方の熱意と、ご縁を

北九州に於いて『小倉城竹あかり』が開催されました。その中で、11月4日、東本錦伶先生と門下生で、ライトアップされた天守閣の下で「☆竹あかりと琵琶と吟詠の夕べ☆」と題してイベント出演致しました。演目は、秋を感じさせるものや、地元福岡を題材にした詩吟に和歌に詩舞、新体詩や聴くものを惹きつける琵琶を1時間程。

会場は、小倉城庭園。メイン会場は、書院造りの大座敷。その広縁から望む池に張り出す浮島をサブ会場としてつなぎ、お客様には視線を移して頂きながら、楽しんでいただきました。池や、それを取り囲む森林は、色とりどりにライトアップされ、

レーザー光線も飛び交う幻想的な会場は、まるでタイムスリッ

プしたかのような思いでした。お客様は、私たちのイベントを指して足を運んでくださった方、また一方で「竹あかり」を觀に来られ、偶然足を止めていただいた方など、様々いらっしゃったと思います。しかし、いずれの方も、演者と呼吸を合わせるかのように集中して聞き入って見入って頂いていました。先生や先輩方の姿に私自身も感銘を受けました。「何かかわらないけど、この場に居たかった。」と最後まで見てくれた少女。「来年もぜひ観たい」「写真撮っていいですか？」など、嬉しい反応も。館長さんをはじめ『小倉城竹あかり』のスタッフの皆さんの思いやり、おもてなしを受けて、気持ちよくスムーズに進行したことも大いに影響した結果と思います。

先に開催された『福岡県本部65周年記念大会』のYouTuber配信の宣伝も、チラシとアナウンスでさせて頂きました。高い芸術性と発展を続ける北九州の地で、ひとりでも多くの方に、詩吟に関心を持っていただける活動ができたなら喜ばしいことと思えます。さて、これから自己研鑽を積み、しり込みしないで舞台に立てるよう稽古に励みたいと思います。

(福岡中央道場 田中錦嶺花)

〈写真は次頁に掲載〉

お知らせ!!

錦城会 福岡県本部大会 YouTube配信開始

～演目～

- ※華道吟 ※漢詩で詠う人生訓 ※流祖山元錦城を偲ぶ (詩舞)
- ※関門海峡漢詩集 ※万葉集・古今和歌集より
- ※特別番組 琵琶吟舞曲「近江八景」 ※和歌・新体詩で綴る日本の風景
- ※松口月城漢詩集 ※特別番組「道」

～配信元～

詩吟朗詠錦城会 福岡県本部事務局長 ^{ますだ}益田 ^{じょうしん}城真 (090-9074-0914)

《心身の健康に、あなたも詩吟・詩舞・琵琶をはじめてみませんか。ご入会をお待ち申し上げます》

竹あかりと
琵琶と
吟詠の
夕べ



西道仙の肩書は実に多様だ。医師、ジャーナリスト、政治家、教育家・・・挙げればまだまだキリがない。今も祝宴やおめでたい席で自然に唱和する「万歳(ばんざい)」は、道仙が全国に

天保7年(1836)1月1日生まれ。何と年齢も天保6年11月15日生まれの坂本龍馬と同年だった道仙。西家はもともと長崎御用医師の家系だったが、道仙の曾祖父道俊が勤皇の志士であったため、幕府に追われ肥後(熊本)天草郡へ潜伏、以来三代にわたり天草の地で医業を行っていた。そんな天草生まれの道仙。本名を喜大(きだい)といった。

錦城流の教本に掲載されている 漢詩の作者 (12) 西道仙

普及させたもの。そして、道仙は西郷隆盛辞世の詩「城山」の作者としても知られる。

孤立無援の我が軍は奮闘し包囲を突破し故郷に帰ってきた。思えばあちこちの堅固な砦をくぐり抜け、その間百里の行程であつた。我が剣はすでにくだけ折れ、我が馬も倒れた。今は秋風吹く故郷の山に骨を埋めるとしよう。明治10年(1877)、西郷隆盛の心の内を思い、道仙はこの詩を「長崎自由新聞」紙上に掲載した。

《参考文献》西道仙―明治維新後の長崎を駆け抜けた快男児 長島俊一著



お願い

かつて活発に活動していた「青年部」。現在では、ご存じない会員さんもいらっしゃるかと思います。

この度、一回限りの青年部通信「錦青 北から南から」の復刻版を発行する試みが進んでいます。錦城会の青年部発足当時から現在までで青年部長を経験された方から、当時の様子や感じたこと、現在の様子、若い会員への応援メッセージ等、是非書いて頂きたいと思っています。ご依頼の連絡がありましたら、是非ご協力をお願いいたします。(元全国青年部長 佐藤錦泉)

編集後記

明けましておめでとうございませす。 コロナウイルス感染症と付き合つて3年以上が過ぎました。感染者は、まだまだ多いですが、怖がつてばかり居られないと、感染対策を講じたうえで、各地で様々な催しが行われ始めました。そのおかげで、錦友の記事も少しずつ増えてきて、全国各地の活動や声を皆様にお伝えできることを嬉しく思っています。今年も皆様からの投稿をお待ちしております。(S)